

ふたたび「中心市街地」について

田中 滋夫
未来構想 PF 理事

中心市街地での街づくりの仕事が好きで、今も地方都市での現場通いを続けている。もともと、街が好きで、特ににぎわいの場づくりは手ごたえを感じられ、多くの仕事をこなしてきた。近年は地方都市中心部の市街地再生に取り組むことが多い。

街は人と人がつながる場であり、特に中心部は人と人が出会い、いくつもの具体的情報を生で得られる場所である。社会とのつながりを肌で感じることの出来る場でもある。単に建物が並んでいるだけでなく、相互に社会的な関係を複合的に形成している当たり前に見えるが貴重な空間なのである。

技術革新がドラスティックに展開し、見えない領域でのイノベーションが私たちの生活を大きく変化し、情報を得る手段の抽象化がどんどん進んでいる。その分だけ、人と人がつながり、具体的に見える環境として社会を実感することの出来る空間の重要性は増してきている。

他方、中心市街地、特に地方中小都市での、衰退、劣化は、問われ始めてから既に20年以上を経過してきているが、状況は更に悪化を続けている。商店街を中心ににぎわいと繁栄を誇っていた中心市街地が急速な劣化に陥るとは殆どの人が考えもしなかった高度成長期から、あっという間としか言えない急速な展開である。

きっかけは都市計画面での大型店規制への失敗からであろう。まず中心商店街の衰退から始まっているが、地方都市での市街地劣化は幅広く、深く進行してきている。

商店街の多くは壊滅状態であり、シャッター通りといわれる様に目立つが、市街地全体に後継者を持たない各種の零細、小企業の店舗、事業所の閉鎖が続き、空住戸も多く目立つようになってきている。

車利用の利便性に依拠した生活空間の変化に、人口減少、地方経済の停滞が加わり、土地、建物の所有、利用構造を深いところでむしばみ、どうやら引き返すことの出来ないところまで病巣が進んでしまったのではないと思われる。

例として、築4,50年の建物活用を見てみよう。ヨーロッパでは多分つい最近建ったばかりというところかもしれない。我が国では、築4,50年は既に古屋で自己利用以外には利用価値はないに等しい。他人に貸そうが物件賃貸は、詳しくは割愛するがいろいろな事情で殆ど成立しない。壊して更地で処分したいが、解体費がかさみ更地価格を超えることが多い。リニューアルを考えるが、建築基準法の用途変更、現況不適格への対応は厳しく下手すると新築並の費用がかかるといわれてしまう。仮に思い切って新築に踏み切ったところで、間口が狭く、奥行き長い土地では有効活用の途は殆ど閉ざされている。もうくたびれたからそろそろ畳むとしても固定資産税はかかり続ける。本来であれば償却が終わり、これからが稼ぎに入るべき不動産が、「持つな」「壊す

な」「変えるな」「売るな」八方ふさがりという負債となっているのが地方中心市街地の殆どの土地、建物の現況なのである。

中心市街地活性化3法以来、今日の立地適正化施策に至るまで。市街地再生への施策は続けられてきてはいるが、はかばかしい効果は挙げられているとはいいがたい。地方中小都市のみならず、拠点大都市、大都市圏近郊都市でも、よく見れば同様の問題山積である。

現場の街づくりのたずさわる立場からすると、市街地再生を支える仕組み、制度の構築はもう待ったなしである。難しい取り組みになるのかも知れないが、これまでの縦割りに細分された制度の積み重ねでは場当たり施策しか生まれてこない。「街」というのは長い時間のなかで積み重ねられてきた人々が具体的に生きる総合的な空間なのである。省庁の壁を乗り越えた真の抜本的な仕組み、制度の構築が強く求められている。

(都市デザイン 代表)

WS

WS 五方面作戦－2（五方面作戦前夜の時代背景）

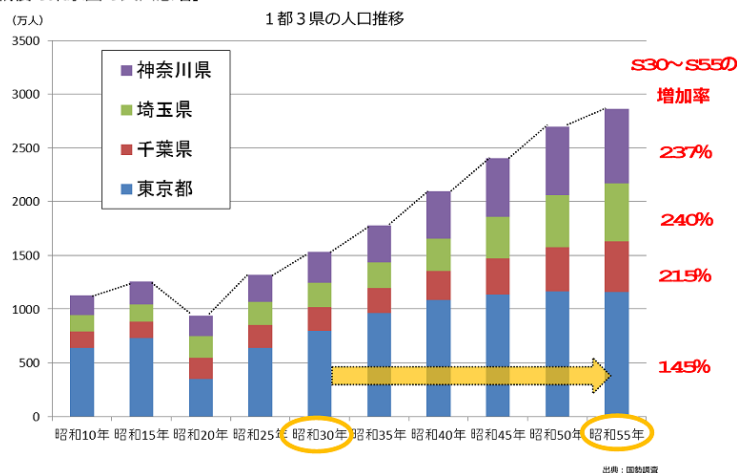
■五方面作戦前夜（1950～1970年代）の時代背景

戦後の高度経済成長により、産業機能は大都市に集中し、図に示すとおり、東京圏（1都3県）の人口は急増傾向であった。1955年では1500万人であったが、1980年までの約25年間に3000万人に急増した。人口増加率は、東京都が145%であるのに対し、神奈川・埼玉・千葉の3県は200%を超えた。郊外から東京都心への通勤・通学者が急増し、この差が写真に示す通勤地獄を生み出したと考えられる。

戦後の3大事故として、桜木町事故・三河島事故・鶴見事故がある。その代表例として鶴見事故の状況を示す。事故発生の背景には線路容量の極限まで列車編成を長大化・列車回数の増大・スピードアップによる輸送が安全度を低下させており、輸送に弾力性を付与することが根本的な対策とコメントされ、安全の重要性が前面に取り上げられた。これらの事故の経験から、五方面作戦を実施する上で、安全性向上への取り組みをより一層重要視して進められた。

また、当時は闘争や公害問題の真っ只中であり、60年安保闘争から始まり、成田闘争・4大公害闘争・京浜安保闘争・公害国会および国鉄のスト権ストなどの出来事が起きた。このような環境の中で、東海道線の横浜貨物別線などは厳しい反対闘争もあったが、それを乗り越え五方面作戦は実施された。

【戦後の東京圏の人口急増】



【事故関係】

◇鶴見事故（昭和38年）

『競合脱線により、支障した列車に隣接線の列車が衝突した』

事故種別: 列車衝突事故

発生日時: 昭和38年11月9日(木) 21時51分頃 天候: 曇り

発生場所: 東海道本線鶴見・横浜駅間 23k800m付近

列車: 下り貨物第2365 列車 現車45両

上り電車第2000S列車(横須賀線)現車12両

下り電車第2113S列車(横須賀線)現車12両

死傷者: 死亡161名 負傷120名

▼折り重なった電車



▼救出作業の様子



▼車内で救出を待つ乗客



VOICE

『一流の田舎町』

進藤 隆之

J R 東日本建築設計

最近、テレビで「ぼつんと一軒家」という番組の人気の高まっているようだ。限界集落を超えた山奥の中にぼつんとたたずむ一軒家を航空写真で見つけ、取材班がその家を訪ねて、人里離れた場所に住んでいる理由・背景・人物像・人間模様を取材しドラマチックに描き出す、というものだ。驚くのは、若い世帯がわざわざ都会から移住し、自分たちの手で山野を切り拓き、自給自足の生活を送ることを楽しんでいる人が結構多いことだ。

ここまで徹底した田舎暮らしではなくても、今日、都心から車で1～2時間もかければ自然豊かな田舎の町に行くことができ、地方創生政策ともあいまって地方都市が積極的に移住や週末移住を促している事例も多くみられる。

かくいう私も色々な事情があり、週末は東京の自宅から一時間半ほどのA市に中古の家を買って、週末移住的に滞在する機会が増えた。そこから1時間ほどにある実家に日帰りで往復し様子を見てきたりする。実家は東京の自宅から3時間程度なので、日帰りとなると労力を要するし、かといって泊りがけで行くとなると準備も大変、ということでちょうど中間点にあるA市はとても便利なのである。インターを降りて10分程度ですぐに森に囲まれた自然豊かな環境となる。ぽつんと一軒家のライフスタイルには程遠いが、裏の野原を開墾し、雑木林を木こりよろしく切って手入れをし、合間に実家に行って様子を見て家に風を通す。そして地物の安い野菜を仕入れて帰京、そんな週末を送ることも多くなった。

A市は「一流の田舎町」を標榜しており、いろんな目的を持った週末暮らしの人や、完全に移住して独自の生活を送っている人なども多く、その目的や暮らし方も多種多様である。東京の一流のホテルのシェフが引退して地物野菜などの料理を提供しているレストランやカフェ、切り出した木を削りながらオリジナルの家具を作って販売している店、養蜂を自前で行ってはちみつを販売している店舗・・・などなど、いずれもこんな場所でどうやって生計を立てているのだろうか？と思われるような林や田園の中にぽつんぽつんこうした店はあつたりする。自分のやりたいことをやれる自由を求めて移住し、暮らしている人が多いなあと感じる。一方、自然の中でのびのびと子供を育てたいと思って移住し、自身は東京にある会社に所属してインターネット環境を駆使してリモートワークをしている人や、「短時間で行き来できる田舎と都会」という環境に目をつけて地域資源を掘り起こしながら6次産業を目的に起業する人もいたりして、都市と田舎の双方を活用するライフスタイルも盛んなようだ。働き方や物流が多種多様になり交通網が充実することで、従来にはなかった様々な生活の仕方が広がっていくのだと思う。

自治体の支援も活発であり、A市では移住者への助成金、空き家バンクの登録、仕事のあっせんや週末移住者のためのごみ収集などのサービスも行われているとも聞く。国も都市と地方の対流を重要なものとして位置付け、地方から都市への一方的な人の流れではなく逆方向の人の流れや、都市住民の二地域居住、二地域就労を促進しようと、「対流促進型国土の形成」を掲げている。国土審議会計画推進部会の「住み続けられる国土専門委員会」の報告書（2018年とりまとめ）―地方への人の流れを促進し、地域の定住人口・関係人口を増やすために―にもこうした施策の戦略やサポート体制などが謳われていて興味深い。実際、全国版の空き家バンクの構築やお試し移住、地域掘り起こし隊（総務省）などの様々な活動が展開されているし、生産緑地法の改正による生産緑地内での直売所や農家レストラン（生産者とレストランを直結したレストラン）の設置も可能となった。用途地域についても従来の区分に加えて田園住居地域の創設など様々な施策が打たれている。

地域に関ってくれる人口（居住者や移住者だけでなく、その地域に関わるふるさと納税をする人など何らか交流やかかわりを持つ人たちを含め）のことを「関係人口」と呼ぶのだそうだが、近年、増加し、人々の地方への関心がより高まりをみせている。こうした動きが加速されていることをあらためて実体験することができた次第である。今後も交通網やネット環境の一層の整備や様々な働き方改革などにより「一流の田舎町」が数多くなっていくのではないだろうか。



各地で農家レストランが増えている（レストランの前に生産者直結の畑が広がる）

たすきリレー

寓話 ながいはし

ある男がえんま大王様に会いに行き、「天国と地獄というのは、どういう世界なのか」を聞きました。すると、えんま大王様は、男に、天国の様子と地獄の様子をそれぞれ見せてくれました。

まず地獄では、ちょうど食事の時間だったので、人々が、なが〜いはしを持って大きいなべの前に集まっていました。この地獄では、なが〜いはしで食事をしなければならない決まりなのです。人々は、なが〜いはしで、なべの中の御馳走をとって食べようとするのですが、あまりになが〜いので、どうしても自分の口にご馳走が届きません。それでみんな、何も食べられずおなかをすかせ、やせこけて、他の人の食べ物を横取りしようとして、けんかばかりしていました。

えんま様は、次に天国を見せてくれました。

天国も食事の時間でしたので、人々は地獄のと同じ、なが〜いはしをもって、地獄のと同じ、大きいなべの前に集まっていました。天国でもなが〜いはしで食事をしなければならない決まりなのです。天国の人々は、おだやかな顔をして楽しそうにご馳走を食べていました。なが〜いはしでご馳走をはさむと、「どうぞ」と言って隣の人に食べさせたのです。にっこりほほ笑む相手は、「ありがとうございました。今度はお返ししますよ」と言ってご馳走を分けあっているのです。



こうして地獄にいる人々は 自分のことばかり考えているために、いつまでもけんかをして何も食べられず、天国の人々はお互いを思いやっているので仲良く暮らせるのだ、とえんま大王様が教えてくれました。

いかがでしたか？

このお話は、先日TV番組（政治に関する）で引用され、今の時代において「相手を思いやる心」が大事なのでは……という報道でした。 たまには、こうやって童心に返ってみるのも良いのかもしれないね。

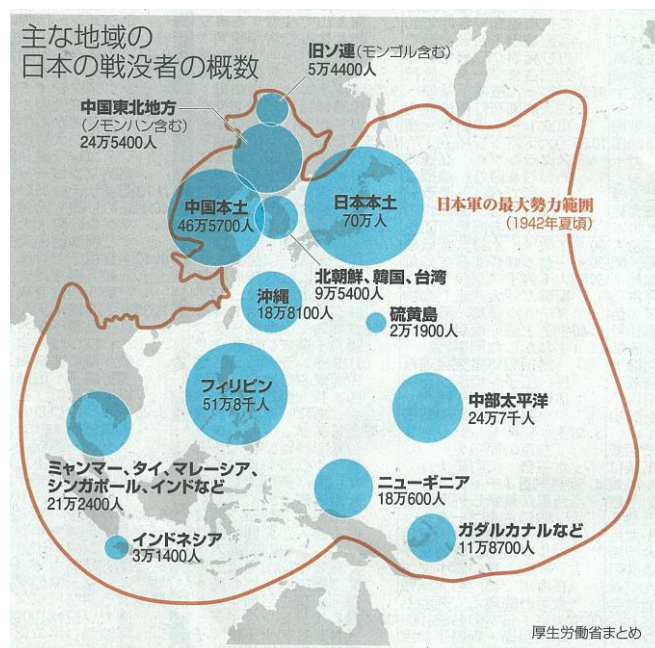
（蓮行寺 HP 参照）

NEWS

■戦後 74 年、不戦の誓い、令和も

降伏を伝える玉音放送が流れた 8 月 15 日から 74 年、令和になって初めての終戦の日。政府主催の全国戦没者追悼式が日本武道館で開かれ、全国の遺族ら約 6,200 人が参列して約 310 万人の戦没者を悼んだ。5 月に即位した天皇陛下が、「深い反省の上で」平和を願うおことばを述べた。上皇さまが 2015 年から用い始めた「深い反省」という表現をはじめ、上皇さまのお言葉をほぼ引き継いだかたちだ。

日本の戦没者だけで約 310 万人にのぼった先の大戦、洋上での戦闘、逃避行の末の栄養失調、侵略への加担。元兵士や遺族、戦争を知らない世代が、各地で犠牲者を悼み、戦争と平和に思いを巡らせた。



（朝日新聞 2019.08.16 から）

■羽田新ルート来年3月運用へ、騒音・安全へ拭えぬ不安（毎日新聞 2019.08.08）

2020年東京五輪・パラリンピックに向け、羽田空港の国際線増便（年間発着回数が約39,000回増え約99,000回、旅客増700万人）のために国土交通省が計画している東京都心上空を飛行する新ルートについて、地元の関係自治体側は7日に国交省が開いた協議会で了承する意向を示した。国交省は近く正式決定し、来年3月に運用が始まる見通しだが、住民の騒音や安全への不安は消えていない。また、成田空港とのすみ分けをどのように進めていくかも課題になりそうだ。



■シビルNPO連携プラットフォーム（CNCP）が会報 第64号を発行

◇シリーズ 「土木ということば」 第16回 「土木工学」ということば

◇巻頭言 正義の見方ヅラをするメディアの真相

CNCP 理事 世古一穂

◇コラム 土木と市民をつなぐ～NPOとボランティアと連携プラットフォーム～

土木学会/教育企画/人材育成委員会/シビルNPO推進小委員会委員長 田中努

◇トピックス NPO法人LIME Japan 第17回啓発セミナー

「インフラ整備～これまでの10年とこれからの10年」 CNCP個人正会員 有岡正樹

◇土木と市民をつなぐシリーズ 当たり前の重み NPO研修情報センター理事 岡室美恵子

◇部門活動紹介 企画サービス部門 「住民が主役、高校生も目覚める橋点検」

◇会員からの投稿 最近の小事—自然災害と避難—

CNCP個人正会員 星野隆幸

*詳細はCNCP事務局にお尋ねください。

Email: info@npo-cnnp.org HP: <http://npo-cnnp.org>

■最近の気になるニュース

岩井有人さん（JR東日本東京工事事務所）のFacebookより抜粋させていただきました。

① アフリカ横断鉄道が開通、中国支援で4000キロ超（08.02）

アフリカ大陸を横断する鉄道が7月30日に開通した。東側のインド洋に面するタンザニアを出発した旅客列車が同日、西側の大西洋沿いのアンゴラに到着した。鉄道が大陸を横断するのは初めて。

② 九州新幹線長崎ルート「フル規格」で（08.02）

自民、公明両党は5日、九州新幹線長崎ルートの整備方式を議論する与党検討委員会を国会内で開いた。新鳥栖～武雄温泉間（佐賀県）をフル規格で整備する方針を決めた。地元の佐賀県は財政負担の重さなどを理由にフル規格整備に反対している。

③ テレワークで働き方をもっと柔軟に (07.29)

時間や場所にとらわれず働く「テレワーク」を約 2000 の企業・官庁が一斉に始めた。五輪開催中の交通渋滞を避けるための本番を想定した 1 ヶ月半の試行だが、柔軟な働き方は生産性の向上や優秀な人材を確保する上でも欠かせない。

- ・働く女性 3 千万人の力生かせ (08.11)
- ・リニア問題 (静岡県と JR 東海対立)、国交省が調整役に (08.10)
- ・復興道路、20 年度全線開通、東日本被災地 550 km (08.09)
- ・「休み方改革」量も質も、リゾート+出張/旅費を補助 (08.07)
- ・空飛ぶクルマ、NEC が試作機 (08.06)
- ・東京五輪、宿足りない? 1 万 4000 室不足の試算も (08.04)
- ・平均寿命、最高を更新、女性 87.32 歳、男性 81.25 歳 (07.31)
- ・NTT と東京メトロ、鉄道保守や駅の混雑緩和で協業 (07.30)
- ・富士山登山鉄道の検討開始、有識者、20 年 12 月に構想案 (07.30)
- ・五輪交通規制実験、7%減、目標 30%に向け対策検討 (06.29)
- ・五輪まで 1 年、会場 9 割完成 (07.24)
- ・銀行 ATM、世界で減少、キャッシュレス決済普及 (07.21)
- ・アポロ月着陸 50 年、米国トランプ大統領「火星旅行」に意欲 (07.20)
- ・ウィラー、定額性 MaaS 全国展開も (07.20)

今月の国際比較データ

① 主な国の民間航空輸送量 出典：日本のすがた 2019 (矢野恒太記念会)

おもな国の民間航空輸送量 (定期輸送) (国際線と国内線の合計)

	旅客輸送 (億人キロ)			貨物輸送 (百万トンキロ)		
	2016	2017*	2017* (%)	2016	2017*	2017* (%)
アメリカ合衆国	15 023	15 520	20.2	38 658	41 592	18.6
中国 ¹⁾	8 365	9 504	12.3	21 305	23 324	10.4
アラブ首長国連邦	3 889	4 061	5.3	16 139	16 517	7.4
イギリス	3 073	3 237	4.2	5 513	5 917	2.6
ドイツ	2 512	2 554	3.3	6 943	7 391	3.3
カナダ	1 966	2 168	2.8	2 246	2 841	1.3
ロシア	1 766	2 054	2.7	5 863	6 845	3.1
アイルランド	1 800	2 039	2.6	118	148	0.1
フランス	1 836	1 929	2.5	4 155	4 261	1.9
日本	1 800	1 915	2.5	9 361	10 685	4.8
インド	1 640	1 904	2.5	1 894	2 407	1.1
世界合計	71 335	76 994	100.0	204 379	223 730	100.0

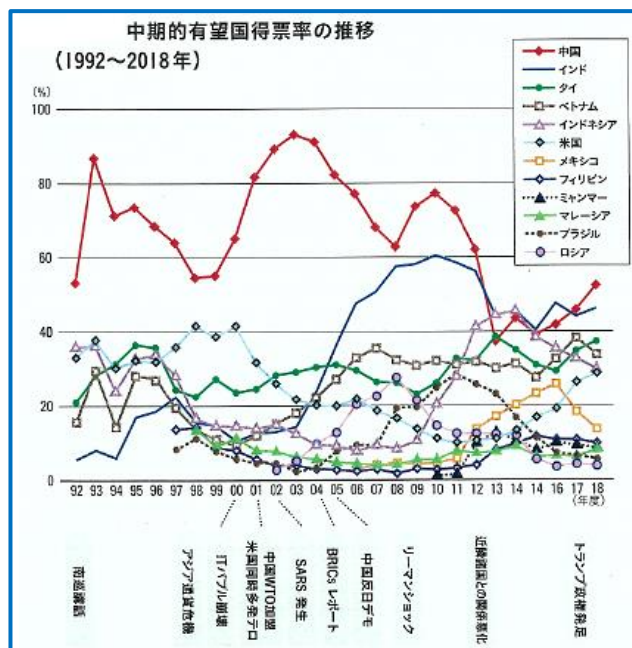
国際民間航空機関 (ICAO)「Annual Report of the Council 2017」による。ICAOに加盟している国の統計。貨物には郵便物をふくみません。合計にはその他の国をふくみます。*ざんてい値。
1)(台湾)、(香港)、(マカオ)をふくみません。

② 中期的有望国得票率の推移

出典：JBIC Today 2019/03

国際協力銀行（JBIC）は、1992年から毎年、中期的（今後3年程度）な有望事業展開先国・地域についてアンケートを行う「わが国製造業企業の海外事業展開に関する調査」を行っており、今回は605社から回答を得た。

近年各国の得票率は、得票率差が縮小する傾向にあったが、今回は中期的有望国ランキング上位6ヶ国と7位以下の二極化が鮮明となり、中国およびインドとその他の国との差が拡大している。ロシアやブラジルが低下傾向となっているのは、近年の日本の製造業は、地理的拡大には慎重なのではないかとみている。

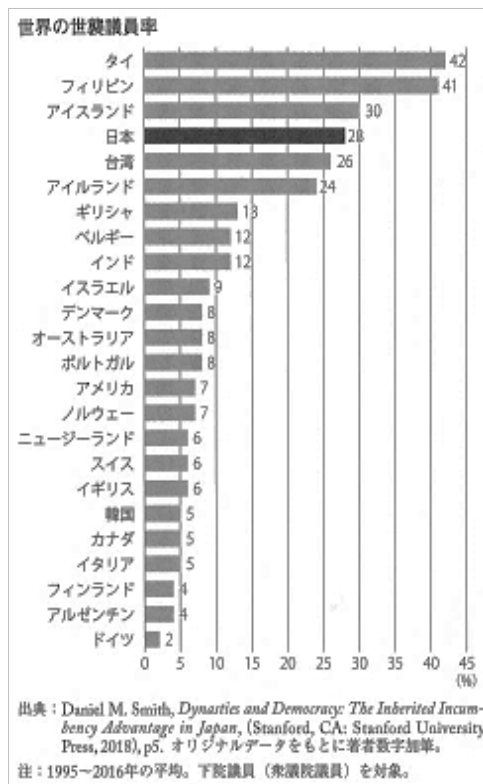


③ 世襲議員

出典：ハーバードの日本人論（中公新書ラクレ）

日本の世襲議員の比率は28%で、10%未満の先進国の中でも突出して高い。特に自由民主党はその傾向が顕著で、全国会議員の39%が世襲議員であった（1995～2016年衆議院議員）。なぜ多いのか、2つの理由があると考えられる。まず党や利益団体からの需要があること、次に国会議員を志望する人の数が少ないこと。メディアでは、世襲議員は一般の人の政治参加を阻害しているというネガティブな意味に使われることが多いが、長期的な視点で地域に貢献する政策の立案が可能というメリットもある。

また選挙での自由民主党の優位を支えているのは「小選挙区に多くの議席が割り当てられている既存の選挙システム」「野党の分裂」「自公の連立」「低い投票率」の4つという指摘も。



PF書店

① ふしぎな鉄道路線

竹内正浩著

NHK 出版

東京～京都間はなぜ中山道ではなく東海で結ばれたか？なぜ奥羽本線は福島から分かれているのか？御殿場と並ぶ山陽本線の難所「瀬野八」が誕生した理由は？かつて北九州に約一週間だけ存在した幻の巨大駅とは？・・・

普段私たちが何気なく利用している全国の鉄道路線は、実は知らない事ばかり。日本近代史に精通する著者が、その成り立ちと残された謎を資料と地図を見ながら徹底的に深堀している。

サブタイトルは「戦争と地形で解きほぐす」「レールの下に歴史が広がる」。



② 未来の地図帳

河合雅司著

講談社現代新書

「未来の年表」の続編で、徹底したデータの活用と、主観や希望的観測を徹底的に排除した未来透視。令和時代は、どこの国も経験したことがない急激な人口減少に見舞われる。そんな人口減少日本で2045年各地に起きることを予測、人口8割減の市町村も、また47都道府県は維持できないと。

第1部 現在の人口減少地図（日本人はこう移動している）

第2部 未来の日本ランキング（20年後日本人はどこに暮らしているか）

著者は、人口減少社会においてはエリアマネジメントという考え方が非常に重要になると提唱。



③ 14歳、明日の時間割

鈴木るりか著

小学館

現役中学生作家、鈴木るりかさんの第二弾書き下ろしの新刊小説。今回の舞台は中学校。時間割に見立てた7編の短編で、現代中学生の目を通して「生きる」ことについて大いに考えさせられる。一時間目国語（作家となった少女への先生の願いとは）、二時間目家庭科（家庭科を得意とする少年が抱える事情と見守る少女の思い）、三時間目数学（都会への転校を前に孤独感に苛まれる少年の再生）、四時間目（道徳ダメな大人たちに囲まれた少年のピュアな成長ダイアリー）、昼休み（読書好きな少女の心の葛藤と青春）、五・六時間目体育（体育が苦手な少女が決意した大きな挑戦と努力）、放課後（夢を持ち続ける大人、先生の苦悩とリアルな心情）。



事務局通信

◇第2回見学会開催案内

未来構想 PF は発足 9 年目を迎えています。昨年度新しい行事として見学会を企画、未来構想 PF の名のとおり、
(未来の) まちと交通と鉄道の繋がりをテーマに、第 1 回見学会「宇都宮 LRT 計画ルート歩こう」を実施しました。

そこで今回、第 2 回として“都心散策”を企画しました。

■テーマ 大丸有（大手町・丸の内・有楽町）まちづくり散策

■日 時 令和元年 9 月 26 日（木）14:30 集合

■集合場所 3 × 3 Lab Future * 東京都千代田区大手町 1-1-2 大手門タワー・JX ビル 1 階

■参加費 無料

終了後、説明会会場近くで懇親会を開催（*希望者のみ、ただし参加費は 2,000 円／人）

■参加申込み

氏名・所属・連絡先・懇親会参加の有無を、9 月 5 日までにメールでお申込み下さい。

* 連絡先：未来構想 PF 事務局 土井（090-9150-8613）(hdoi@jrc.jregroup.ne.jp)

● 今月の写真コーナー ●

家族で山陰旅行を楽しんできました。8 月の旅はさすがに暑く、蒜山高原（岡山）や奥出雲鬼の舌震（島根）での散策は涼風爽やかでしたが、その他は暑さでグッタリ、冷たい飲み物？が欠かせません。



① 宍道湖で見た彩雲。
現れると吉兆と言われるが
実際はありふれた気象現象、
だそうです。



② 出雲大社。
大しめ縄はいつも見ても圧巻。



③ 素戔鳴尊（すさのおのみこと）。
ヤマタノオロチ伝説の英雄、
容姿端麗で強者。

（写真提供者：H.D）

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 携帯:090-9150-8613 メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28